

御退官に寄せて ―飯泉滋先生・山内靖喜先生との思い出―

松本一郎*

飯泉滋先生・山内靖喜先生、この度は御退官、大変おめでとうございます。私が昭和60年に鳥根大学理学部地質学教室に入学した年から、同大学院を修了するまでの6年間にわたり両先生からは多大なご教授を受けました。大学時代に両先生からご教授された内容は、現在私が教壇にたつて学生を指導する中で大変参考になり、改めて多くのことに感謝する次第であります。大変僭越ではありますが私が記憶する両先生のエピソードを紹介させて頂き、飯泉先生・山内先生への感謝の言葉に代えさせて頂きたいと思います。

焼肉レースと同位体にみた飯泉先生のお人柄

飯泉先生の人柄に触れたのは私が大学院の1年生の時のことでした。当時世の中は昭和から平成へと変わったばかりでした。私は白亜紀の火成岩類の同位体組成を調べるべく、鳥取県三朝の岡山大学地球内部研究センター（現：固体地球研究センター）に長期にわたって滞在しておりました。途中から、私の一つ下の後輩（Tさん）も加わっておりました。

ある日の事、Tさん、Tさんの指導教官の飯泉先生、私の指導教官の澤田先生、および私の4人で三朝温泉近くの焼肉屋さんで食事（勿論焼肉）をしました。これぞ、私が目撃した珍焼肉レースでした。通常、焼肉レースと言えば先を争って、と想像しますが2人を除いてそうではありませんでした。2人とは私と澤田先生のこと、お肉が焼けるか焼けないかの速攻で箸を伸ばしておりました。ところが、「レア」が苦手（想像ですが）のTさんには、なかなか過酷なレースとなりました。それを察したのが、飯泉先生でした。良く焼けるまでガードしたお肉を、せっせとTさんのお皿に運んでおられたのです。私は師弟関係について考える時、決まってこの時のことを微笑ましく、思い出します。教官にもいろいろなタイプの方がおられますが、飯泉先生ほど温厚で優しく学生に接しておられる方を他に知りません。

それとは対照的に、学問的な厳しさ正確さは、飯泉先生の授業から大いに伝わってまいりました。それは、私を同位体の研究へと導いたと言っても過言ではありません。そもそも、私が地球化学を真に楽しく感じたのは、飯泉先生の「同位体地質学」の授業からでした。同位体の方程式の無機質な数字から、生きた地球のマグマの鼓動を感じたような、そんな気にさせて頂きました。今の私があるのも、同授業が一つのきっかけとなったことを思うと感謝に耐えません。

山内先生からのプレゼント

山内先生からのプレゼント、それは今も私と共にあります。大げさかもしれませんが、私がジーンズ姿でいるときの「ベルト」がそうであります。茶色の皮製でイギリス帰りのお土産でした。これを頂いたのは、私の他に私の同級生である卜部厚志君と菅田康彦君でした。頂いたのは、私たちが大学院の2年生になったばかりの頃（15年前）だと記憶しています。当時、私たち恐れを知らない学生は山内先生のことを「やまちゃん」と親しみをこめて（本当です）呼ばせて頂いておりました。当時は、「多少強引でフィールドが大変よく

*鳥根大学教育学部地質研究室
平成元年度理学部地質学科卒業・平成3年度同大学院修了

似合う愉快で怖い先生」というイメージを学生は持っていたのではないのでしょうか。

そのような先生が、どうして私たちにプレゼントをして頂いたかという、しっかりした理由がありました。私たちが大学院1年生の時に山内先生は、ヨーロッパに文部省の在外研究員として長期にわたって留学(オーストラリアとイギリス)されておりました。「やまちゃん」だからどこに行かれても、元気で研究を楽しまれているだろうと皆(卜部・菅田・松本)で話していた丁度、出発から1ヶ月くらいあとのことだったと思います。体調を壊されているとの情報に、一大事だと感じた私たちは、卜部君の提案で日本食(梅干し、みそ汁など)を段ボールに詰めてお送りしたというわけです。

フィールドと言えば山内先生という程、私たちが学生の頃、山内先生から野外で教えられたことは数多く、「島根大学の学生はフィールドが強い」のもひとえにそのお陰だと思えます。また、私は卒業論文で4~5ヶ月間にわたって広島県吉舎町にて野外調査に明け暮れましたが、そのようなことができたのは、基礎をしっかり教えて頂いたからだと思えます。

学生時代と比べると、今では頂いた「ベルトの穴」も外側へ大きくシフトしましたが、目には見えないプレゼントとしての「地質学の基礎」は今も変わらずに、多くの卒業生に刻みこまれております。

おわりに

以上述べさせて頂いたことは、飯泉先生・山内先生との思い出の一端に過ぎませんが、学生にとっての大学4年間(もしくは大学院を含めた6年間)は、大変に貴重な時であります。学生時代には、一つ一つの小さな出来事でも、今後の人生(仕事や研究を含めて)に大きく影響する時期だと感じております。現在私も教官という立場になり、その時代の流れ・速さに改めて驚く次第であります。

そのようななかで、自分が学生時代に受けた「感動」「情熱」などを、さらに今の学生に伝えてゆくために、飯泉先生・山内先生の教育者・研究者としての姿勢をこれからも見習って実践していきたいと考えております。

最後になりましたが、飯泉滋先生・山内靖喜先生のこれまでの教育・研究活動に対して、心から敬意を表します。長い間、大変御苦労様でした。また、大変ありがとうございました。